

令和2年度第2回富山県中小企業の振興と人材の育成等に関する県民会議

日 時： 令和3年2月22日（月）13:30～15:00

場 所： 富山県民会館 8階バンケットホール

説明事項：（1）令和3年度 富山県中小企業振興施策（当初予算案）について
（2）令和3年度 国の中小企業振興施策等について
（中部経済産業局、富山労働局）

委員からの主な意見（要旨）

- ・ 経済の先行きは、ワクチン効果でコロナが収まる中、新興国の回復とともに日本経済も回復すると予想される。一方で、製造業は、新興国との価格競争が厳しく、付加価値の高い分野への進出が求められる。中小企業の成長分野や付加価値・生産性向上への支援は時宜にかなっていない。中小企業には資金助成だけでなく、「知恵」の部分でのきめ細かな支援が必要。
- ・ 未来に向けた重点課題は、①DX、②カーボンニュートラル、③リサイクルが柱になる。特に②は、アメリカやEUでの取り組みが急激に進んでおり、対応しない場合は輸出が困難になる可能性が高い。コロナ収束前の今から対策を進める必要がある。個々の企業に取組みを促すだけでなく、くすりコンソーシアムのように、県が産学官をコーディネートしてほしい。
- ・ DXへの取組みは、時間をかけてやってほしい。IoTの取組みも、3年間で取り組むべきことが具体的になってきた。
- ・ 制度融資による支援は、事業維持だけでなく、事業承継や事業拡大、今後に向け足腰を強くする企業を、優先するような形を検討願いたい。
- ・ 販路開拓や特産品に関する事業等は県と市町村で二重になっていると感じる。役割分担をしてほしい。UIJターンやベンチャー起業促進においても、県は、市町村や経済団体の取組みを網羅し、全体のネットワークをつくり、県としての重要課題への取組みをより強化する、連携体制の構築が必要。
- ・ 女性活躍には、環境改善や処遇改善に加え、女性の意識改革を促すことも課題。リーダー育成講座等の参加者は大企業が多く、中小・零細企業は気後れするという声もあり、規模や業種別とするなど、裾野を広げてほしい。ロールモデルが必要。
- ・ 中小企業の振興施策だけでなく、将来を担う人材育成にも力を入れてほしい。
- ・ 全国在籍型出向等支援協議会が発足し、出向先・出向元双方に支給される産業雇用安定助成金も創設。これらを活用してマッチングが進むよう、特に出向元企業の情報が出てくるよう働きかけを。
- ・ 高卒人材確保のため、就職希望者とその保護者に対し、中小企業の活動内容や素晴らしい技術をアピールする機会を設けてはどうか。